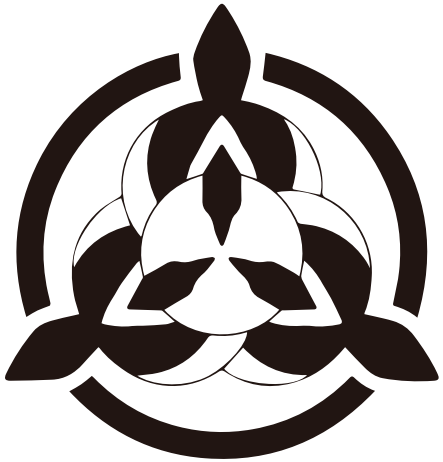


KASASAGI

CONTENTS

FOUNDER MESSAGE 04

ABOUT KASASAGI 05

STORY 06

MEMBER OF BOARD 07

OVERVIEW 09

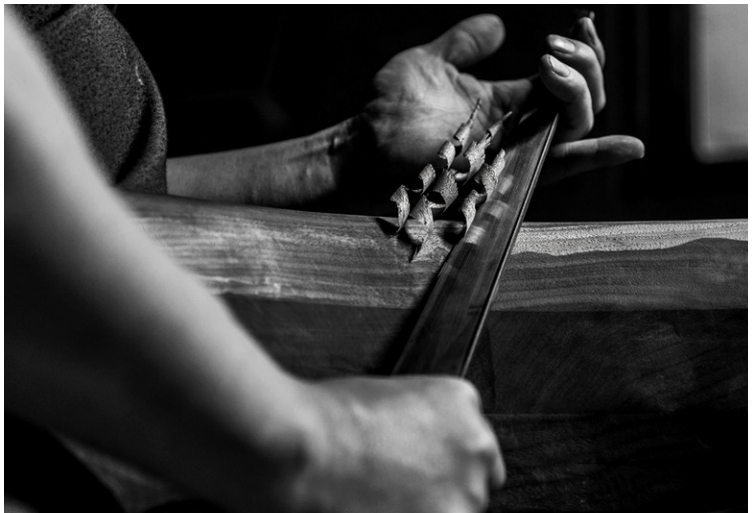
OUR APPROACH 10

PROJECT 11

情熱を欠かないモノづくり。

職人という生き様を誇れる世界へ。







FOUNDER MESSAGE

はじまりは、100通のラブレターから。

創業当初、全国の工房へ100通の手紙をお送りするところから始まりました。
その後、一つ一つの工房へ足を運び、職人さんと膝を突き合わせて対話を重ねてまいりました。創業から5年間は住まいを持たず、全国1,000を超える工房を訪ね、素材の仕入れに同行させていただいたり、時には掃除などのお手伝いもさせていただきながら、現場に身を置いて工藝と共に暮らしてきました。
その中で面倒を見てくださったのは、良いものを作っているにも関わらず、声が小さく世の中へ届かず、経済的には厳しい状況の中で、それでもファイティングポーズを取り続けている職人さんでした。

明日を生きるための収入を優先せざるを得ない状況では、本来作りたいものや実現したいことが抑制され、結果として手仕事の尊厳や誇りが損なわれてしまう現実があります。一方で、現代社会で見落とされてきた価値や、これまで無駄だとされてきた手間の中にこそ、作り手の情熱が宿っているのではないかと考えています。
KASASAGIは、そうした職人さんとともに情熱を欠かないものづくりを実現することで、職人という生き方に対して胸を張れる社会をつくりたいと考えています。そして将来、KŌGEIという言葉が世界語となり、世界中の手仕事に携わるすべての方々の誇りが取り戻される世界の実現を目指しています。

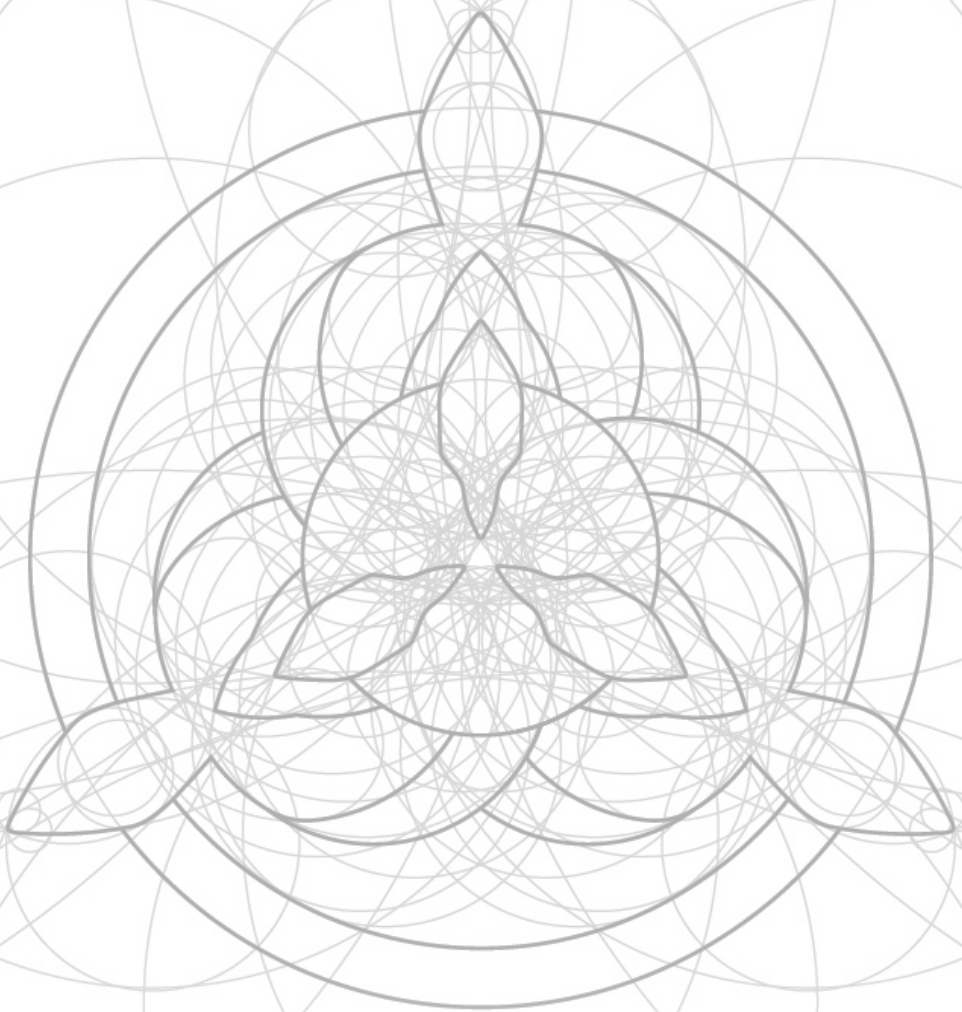
塚原 龍雲



ABOUT KASASAGI

KASASAGIという社名について

流通の仕組みや市場の都合によって、本当に良いものづくりができないことがある。私たちは、そんな状況を少しずつ変えていきたい。
全国1000を超える工房と交流を重ね、工藝に従事する職人さんの尊厳を守りながら、こだわりや情熱を捨てずにものづくりができる環境を、共につくる。その橋渡しを担うことが、KASASAGIの使命です。
社名「KASASAGI」の由来は、織姫と彦星が天の川を渡るために、翼を重ねて橋を架けた鳥「カササギ」の伝説から。美しい技術を残していくのが難しくなっている現代においてつくり手から社会へ、「物」としての工芸だけでなくものづくりの心を橋渡しし、未来に残していく。
そのような役割を担うのが「KASASAGI」の使命と考えています。



MEMBER OF BOARD



塚原 龍雲

Tsukahara Ryuun

CEO / Co-Founder

2000年生まれ。高校を卒業後、米国大学に入学。留学先で日本文化の魅力と可能性を再認識したことをきっかけに、日本の美意識で世界を魅了することを掲げ、KASASAGIを創業。近年はインド仏教最高指導者、佐々井秀嶺上人の許しを得て得度し、仏教精神のもとモノづくり事業を展開。
「Forbes Culture Preneur30」に選出されるなど、工藝を建築に昇華する取り組みが注目を集める。

著書『なぜ日本の手しごとが世界を変えるのか』
(集英社新書)好評発売中



吉澤 果菜子　Yoshizawa Kanako　Co-Founder

1998年生まれ。大学在学中に伝統的工芸品産業振興協会で3年半のインターンを経験。全国の工芸職人との交流を通して、現場の現状や産業構造の課題に深く関心を寄せる。2020年、塚原とともにKASASAGIを共同創業。以降、深い伝統工芸への知見をもとに、KASASAGIのクリエイティブを文化的背景から支える存在として、伝統技術の美を現代の空間やデザインへと昇華させた数々のプロジェクトを手がけている。



岡田 佳人　Okada Yoshito　Co-Founder

2000年生まれ。高校卒業後、コンピュータサイエンスを学ぶため米国シリコンバレーへ渡米。帰国後、高校時代に出会った塚原とともにアプリ開発の会社を立ち上げ、プロダクトづくりと事業運営の経験を積む。その後、「KASASAGI」を共同創業。現在は、事業全体の遂行責任を担う実行責任者として、多様な領域を横断しながらプロジェクト管理、組織運営など幅広く活躍。「とにかくなんでもやる」姿勢でKASASAGIの実行力を支えている。



木田 佳仁　Kida Yoshihito　Principal Architect/ 一級建築士

1976年生まれ。日本国内にてArchitects 5、城戸崎建築研究室などの著名な設計事務所で実務経験を積んだ後、2011年に渡米。ロサンゼルスのデザインビルドオフィスにて4年間にわたり、高級住宅プロジェクトを担当。帰国後独立し、以降NOBUレストランをはじめとする世界各地のホスピタリティ施設やラグジュアリー物件の設計に、25年以上の豊富な経験をもって携わる。現在は「KASASAGI」のプリンシパルアーキテクトとして、空間デザインおよび設計全体の統括を務める。



植竹 政夫　Uetake Masao　Principal Construction Manager

1961年生まれ。専門学校で建築設計を学び、ものづくりへの興味からゼネコンに入社。大手デベロッパー、設計事務所、数寄屋造りの老舗工務店、デザイナーズ住宅工務店などで現場監理に携わり、住宅から超高層ビルまで幅広い施工監理を経験。自身で建設会社を設立し経営を行った後、住宅設計大手より建設部門新会社の立ち上げを任され取締役に就任。これまでの豊富な経験を活かし、KASASAGIにて建設業における経営管理責任者を務める。



久保田 光明　Kubota Mitsuaki　Designer

1994年生まれ。大学進学で富山県高岡市へ移住。卒業後同市内デザイン事務所で6年間実務経験を積み、2022年に独立。企業ブランディングや商品開発の業務を行う中で、地域産業の課題と向き合うようになり、2025年にKASASAGIのインハウスデザイナーとして入社。同年より高岡伝統産業青年会の専務理事を務める。富山ADC賞、富山ADC大貫卓也特別賞、グッドデザイン賞、ふるさとイベント大賞内閣総理大臣賞 など受賞。

KASASAGI ×NONVERBAL

「プロパティブランディング」領域への本格参入

KASASAGIは、新たにブランディング会社NONVERBALを仲間に加え、
ブランド構築の視点から空間・建築を設計する
「プロパティブランディング」領域へ本格的に参入します。

これまでKASASAGIが培ってきた、工藝素材や職人技を空間へ実装する
ノウハウに、NONVERBALの持つブランド設計・コンセプト開発・
コミュニケーションの知見が加わることで、
意匠や素材提案にとどまらない、より本質的な空間価値の創出が
可能になります。

KASASAGIは、建築や空間を「物」として完成させるだけでなく、
その土地や文化、人の営みの中で育まれてきた価値を尊重しながら、
工藝とブランディングの力によって
未来へと受け継がれていく資産へ昇華させていきます。



CAPABILITIES

01 デザイン
DESIGN

ブランド戦略 / ガイドライン策定
VI・BI 開発
サイン・環境グラフィックデザイン
販売支援（各種クリエイティブ制作 / ディレクション）

02 建築
ARCHITECTURE

建築デザイン / デザインディレクション
インテリアデザイン
FFEデザイン / 選定 / ディレクション
建築施工（元請 / 工藝専門工事）

03 マテリアル
MATERIAL

工藝マテリアルの開発 / 選定 / 編集
建築仕様へのローカライズ / 技術対応
詳細図 / 施工図 / 施工要領書作成
不燃 / 法規 / 技術協議
特殊施工 / 現場実装

04 アート
ART

アート / 工藝の企画 / コンサルティング
アートワーク制作
詳細図 / 施工図 / 施工要領書作成
設置 / 施工



OVERVIEW

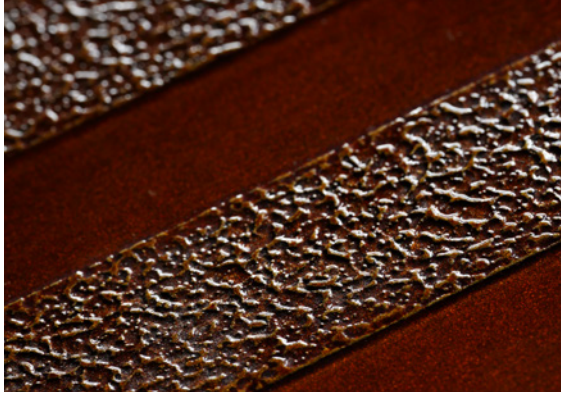
社名	株式会社KASASAGI
所在地	東京都中央区日本橋室町1丁目11-6 宝来ビル2F
許可・登録	【KASASAGI STUDIO 一級建築士事務所】 東京都知事登録 第66513号 【株式会社KASASAGI 特定建設業】 東京都知事 許可（特-8）第161913号
設立	2020年3月
資本金	85,324,008円
グループ会社	株式会社 ノンバーバル（ブランドデザイン事業）
顧問弁護士	S&W国際法律弁護士
取引銀行	北陸銀行・三菱UFJ銀行
加入保険	AIG（国内・海外）保険

MEDIA COVERAGE / PUBLICATION

Forbes JAPAN
KYODO
the japan times
神戸新聞
信濃毎日新聞
中國新聞社
POTLUCK YAESU
WBS WORLD BUSINESS SATELLITE
世界ふしぎ発見!
週刊ホテルレストラン HOTERES
毎日新聞
Words for tomorrow
WORK MILL
ARCHIEs

「Forbes Culture Preneur 30」選出

著書『なぜ日本の手しごとが世界を変えるのか』（集英社新書）





OUR APPROACH

工藝建築

全国1000を超える工房と提携、
「工藝素材」を施工まで一気通貫で行います。

【一級建築士事務所】東京都知事登録 第66513号
【特定建設業】東京都知事 許可（特-8） 第161913号

KASASAGIは伝統工藝に用いられてきた技術や素材を、現代建築へと応用する、設計施工一体のスタジオです。
全国の職人と協働し、品番ではなく「人」を指定して空間をつくるという、失われつつある建築の本質的な姿勢を大切にしています。工藝素材は大手ゼネコンや一般的な工務店では扱いが難しく、私たちは自社で施工まで手がける体制を構築しています。
素材レベルでの研究開発（R&D）にも取り組み、伝統技術の新たな可能性を空間へと昇華しています。

KASASAGIのチームには、日本各地の工房や産地と深く関わりながら、職人さんと膝を突き合わせながら工藝素材と向き合ってきたメンバーが在籍しています。
また、チーム内には一級建築士をはじめとする設計者から、施工を担う人材までが在籍。素材の研究・検証（R&D）段階から、詳細図設計、法規対応、施工に至るまで、難易度の高い施工技術が求められる工藝素材を建築空間へ応用するための機能を社内に一貫して備えています。

PROJECT

外資系自動車メーカー 本社オフィス

Interior

本プロジェクトは、水素をエネルギー源とする外資系自動車メーカー様のオフィスにおいて、先進的な技術とサステナビリティを象徴する空間づくりを目指したものです。企業理念と親和性の高い「水」をモチーフに、空間全体を通して清新かつ未来的な印象を演出いたしました。エントランスには、“水の藝術”とも称される和紙を壁面素材として採用。幾層にも重なった奥行きある表情が、水面に広がる波紋のように未来へと連なっていくイメージを体現しています。和紙ならではの柔らかな質感と繊細な陰影が、先端技術に取り組む企業の先進性と品格を両立させる空間の象徴となっています。

MATERIAL

和紙

金属着色













House Hishida

Interior

大工アーティスト・菱田昌平氏との協働による住宅プロジェクト。エントランスには、高岡銅器の錆を活かした螺旋階段を制作。経年と共に深みを増す、菱田昌平氏の建築の「古美る」美しさを象徴しています。技術から生まれるデザインと、職人による確かな技術が融合。自然素材の力強さと、手仕事の繊細さが共存する、心地良く美しい住空間を実現しました。時の流れとともに変化する素材の表情が、住まう人の人生とともに歩み、美しさを重ねていく住まいとなることを目指しました。

MATERIAL

金属着色













Minamibōsō Kayabuki Restoration Project

Architecture

本プロジェクトは、南房総に所在する庄屋建築を対象とした、茅葺き屋根の復元計画です。当該建物は、本来茅葺き屋根を有する古民家でしたが、時代の変遷に伴いトタン屋根で覆われ、建築当初の姿や佇まいが失われていました。本計画では、後年に設えられたトタン屋根を撤去し、本来の姿である茅葺き屋根へと復原することを目的としています。屋根は庄屋建築ならではの大規模な架構を有しており、その規模ゆえ、茅材の確保や茅葺職人さんの手配に加え、別荘としての使用を前提とした通風計画など、多角的かつ慎重な検討が求められました。屋根の形状および棟の意匠については、同じ南房総地域に所在する重要文化財・旧尾形家住宅を参照し、地域に根差した意匠やプロポーションを学びながら、地元大工さんの協力を得て制作しています。

MATERIAL

茅葺き











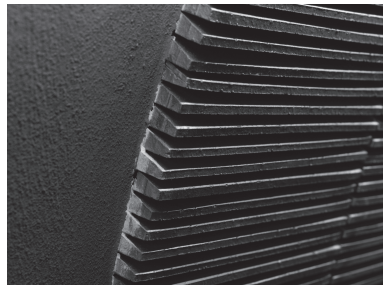
THE NOMU FUKUOKA

Architecture

本計画は、100年以上続く瓦屋をクライアントとし、瓦の輻射熱によって深部体温を温める低温浴施設の開業と、縮小する瓦市場に対する新たな価値提案を目的としたプロジェクトです。
空間は、自然素材を多用したアプローチを通じて都会の喧騒から感覚を切り離し、静かで有機的な状態へと導く構成としました。床には瓦タイル、造作什器には瓦を貼り込み、撓尺の屋根曲線から着想を得た造形を採用しています。さらに、神来土、伊達冠石、ウォルナットなど、時間とともに風合いを深める素材を選定し、自然と人の手が積み重ねた時間の層を空間に織り込みました。本プロジェクトのデザインは、形態からではなく、素材の性質や手仕事から発想されています。瓦・石・木・土といった自然素材が身体感覚に働きかけ、瓦の輻射熱とともに感覚を徐々に解きほぐし、内面へと意識を向かわせる禅的な体験を生み出します。結果として本計画は、瓦を現代空間へ昇華するだけでなく、KŌGEIというフィロソフィーを通して、人と自然の共生を探る実験的なプロジェクトとなりました。

MATERIAL

瓦
左官
伊達冠石
和紙









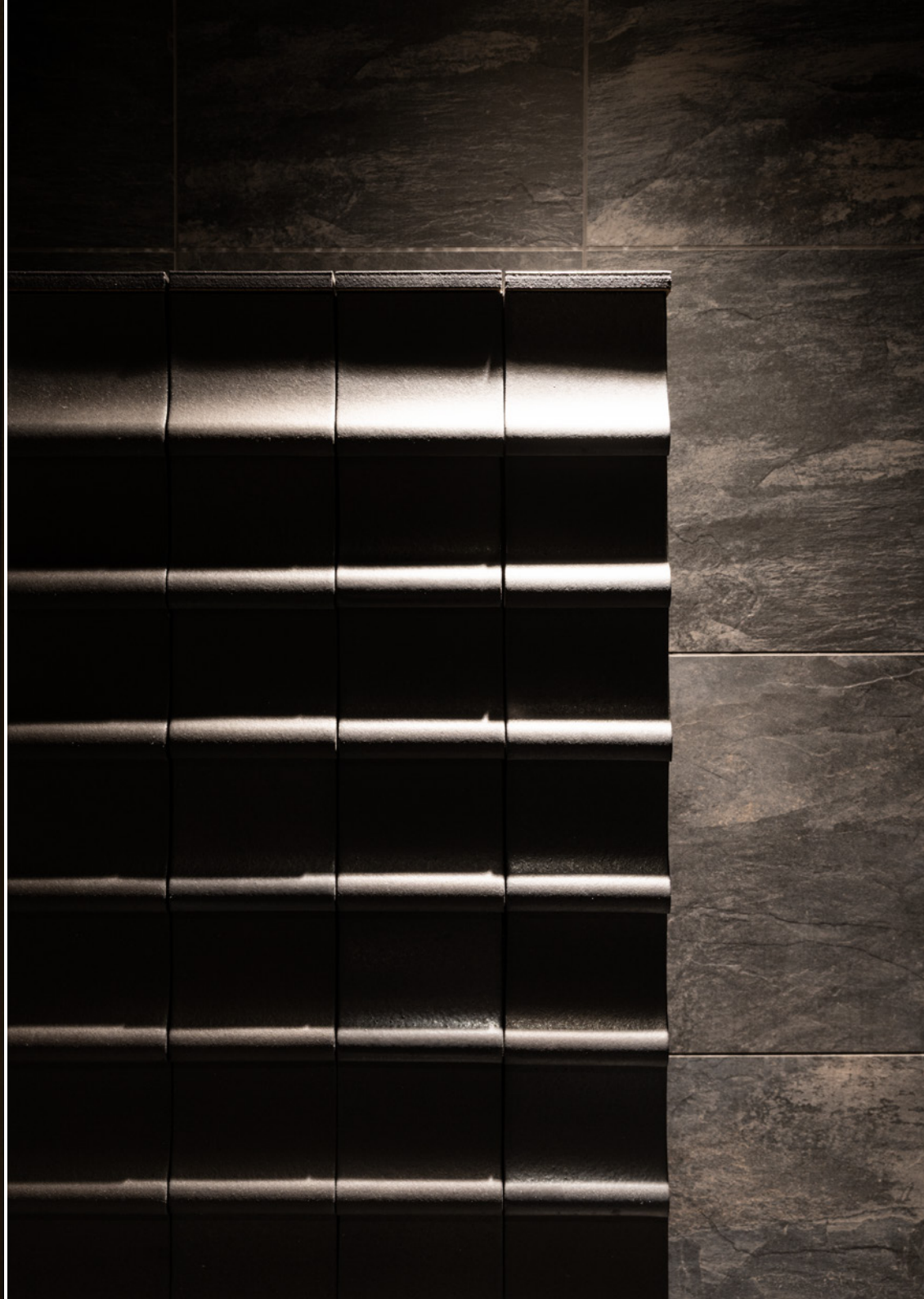












人形町レジデンシャルプロジェクト - Under Development

Architecture

江戸の文化が今も息づく人形町。計画地から徒歩4分の場所には、今も伝統を守り続ける「江戸組紐」の工房があります。この土地固有のアイデンティティである“組紐”を起点に、地域と建築の新しい関係を探りました。外観には、藤四ツ組の意匠を取り込み、エントランス廊下には壁面一面に組紐をあしらうことで、組紐の持つ心地良いリズムを建築に取り込みました。さらに、エレベーターホールには、江戸組紐の制作に欠かせない“丸台”を象ったベンチを設置。素材・技術・記憶を現代的に再構成し、この街ならではの工藝的な建築のあり方を提案しました。

MATERIAL

江戸組紐













インフラ関連企業 本社オフィス

Architecture

インフラ関連企業 本社オフィスにおいて、私たちはオフィス空間内に設置されるアートワークの企画・制作を担当しました。企業が提供する通信インフラは、日常生活の中で人々が直接目に するものではありません。しかしそれは、人と人、人と場所、人と情報をつな ぎ、社会を支える重要な基盤です。本プロジェクトでは、そうした「目に見えな い価値」を、素材や手仕事、そして時間の積層を通して空間の中に可視化する ことを試みました。

全体コンセプトである「One Stroke to Colorful Future」は、一本の線が未来へと伸びていくイメージを表現しています。過去から受け継がれてきた技術や感性を現代のワークプレイスへと結びつけることで、未来への挑戦や交流、多様な個性の開花を象徴するアートワークを創出しました。空間内には、さまざまな素材や技法を用いたアートワークを展開しています。それらを単なる装飾として扱うのではなく、同社が培ってきた技術力や未来 へ向かう姿勢を象徴する存在として空間に組み込みました。

MATERIAL

大阪欄間

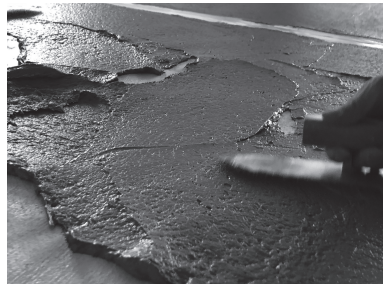
漆

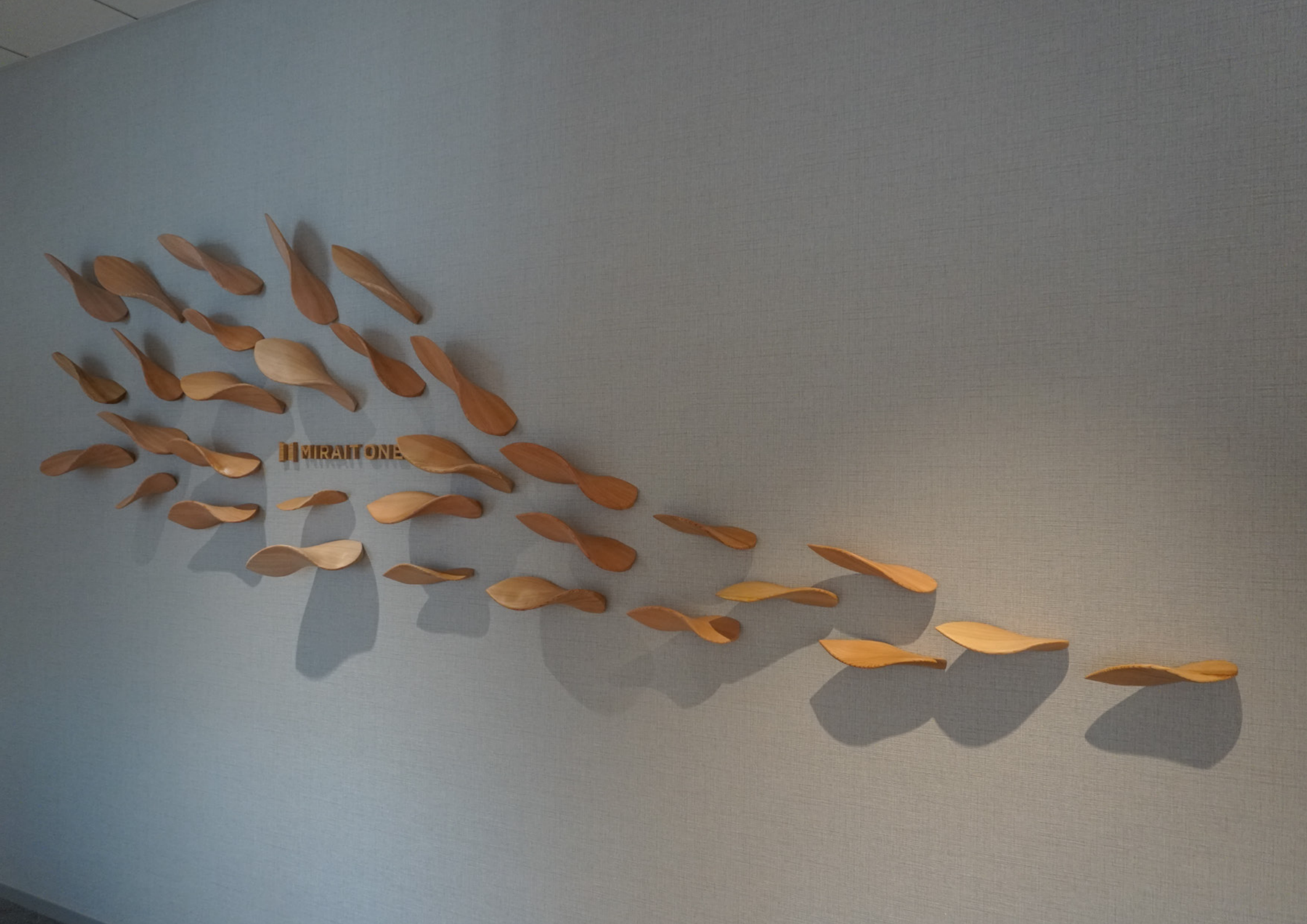
陶器

左官








MIRAIT ONE





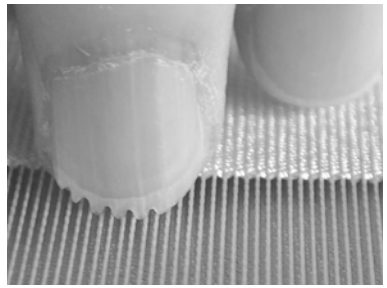
ARTWORK 005

Artwork

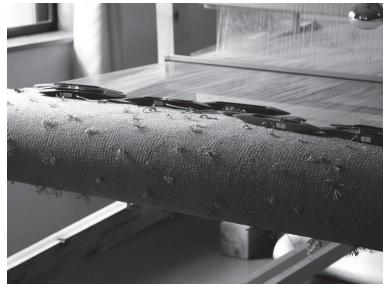
1400年続く綴織の技術を用いて、「心のなかの琵琶湖」を抽象的に表現。織物には湖南市の正藍染にて染色した糸を採用し、地元の素材と地元の技術で、象徴的存在でもある琵琶湖を織り込みました。本アート製作を機に、織機を復元したことで、多層に重ね塗りされた油絵のような美しいテクスチャが立ち現れ、今までとは違った印象の絹織物をつくることが可能になりました。

MATERIAL

綴織／西陣織

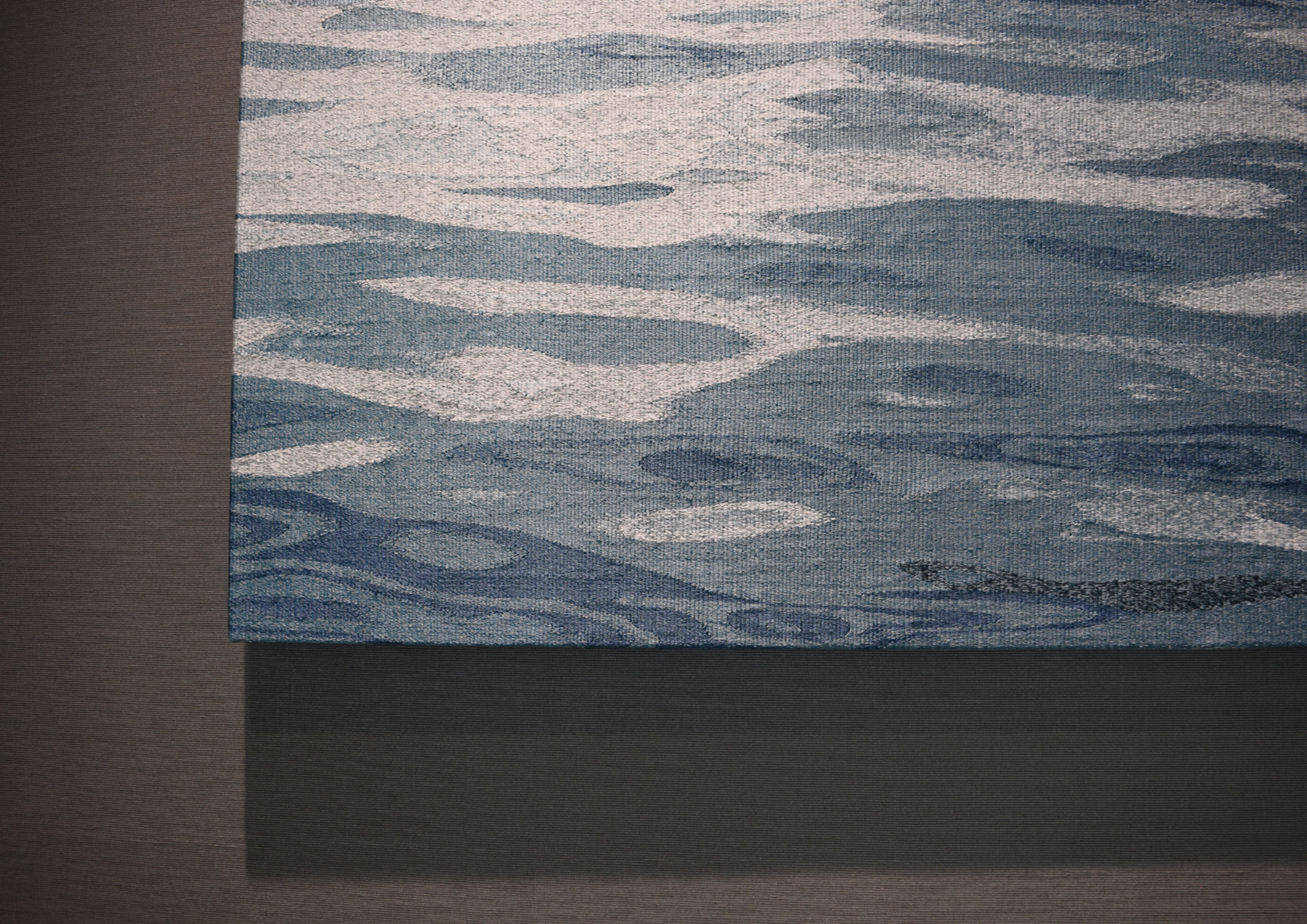









GLP



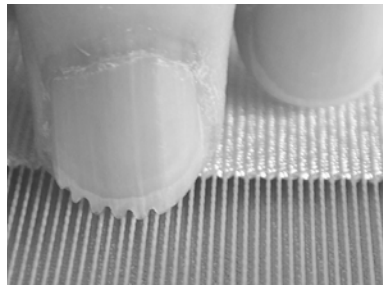
ARTWORK 006

Artwork

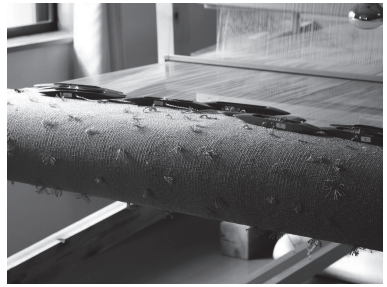
本物件から望む美しい夕陽の情景に着想を得て、そのグラデーションを伝統工芸の綴織で表現した織物アートを、エントランス風除室に設置しました。外界と内空間を緩やかにつなぐ「間」を演出することを意図しています。柔らかく繊細な織り地は、物理的にも心理的にも境界を曖昧にし、訪れる人の心を穏やかに解きほぐします。受け壁一面に広がる織物は、自然の美を空間に取り込み、住まいの第一印象に安らぎと奥行きを与えます。

MATERIAL

綴織／西陣織













ARTWORK 001

Artwork

三井不動産の物流施設 MFLP 座間 のエントランスに、地域の風景と伝統の意匠を融合させたアートを設計しました。物件から望む丹沢山の山並みを、伝統紋様「矢絣」を現代的に再解釈しながら表現。矢絣は「悪いものを寄せ付けない」とされる縁起の良い模様であり、この場所を訪れる人々を力強く迎え入れるシンボルとなっています。また、晴れた日の空を思わせる青を基調とし、事業パートナーである芝浦機械のコーポレートカラーでもあるこの色を、金属の錆による発色で表現。素材の持つ力強さと鮮やかな色彩が融合し、訪れる人の目を引く圧倒的な存在感を放つアートに仕上げました。

MATERIAL

金属着色








Shibaura
Machine
MF-P


ENTRANCE LOUNGE



ARTWORK 002

Artwork

千川の土地の記憶を受け継ぎ、この場所ならではの風景を表現したエントランスアート。高岡銅器に用いられる金属の錆を活かし、時を重ねることで深みを増す素材の美しさを引き出しました。かつて流れていた川の水、土、植物、そして物件から望む桜並木。その移ろいゆく情景をグラデーションで描き、訪れる人がこの土地の記憶と静かに響き合う空間をつくり上げています。

MATERIAL

金属着色













Hiroo C House

Interior

伝統の技と素材の魅力を生かし、上質で心安らぐ住空間を創出した個人邸プロジェクト。エントランスには、西陣織の「引箔」技法を用いたアートパネルを設置。本来は最高級の織物の一工程として用いられる技術を切り出し、平面でありながら奥行きを感じる立体的な表現へと昇華しました。経年美化された古代箔を幾重にも重ねたパネルは、光の加減で表情を変え、金箔を右肩上がりに配置することで、縁起の良さを象徴しています。また、リビングルームの壁面には左官仕上げの土を採用。調湿性にも優れた自然素材を取り入れることで、空間に柔らかな質感と温もりをもたらし、日々の暮らしの中で心が安らぐ場となるよう制作しました。

MATERIAL

引箔／西陣織

左官






DELL





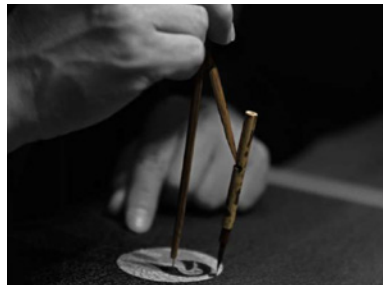
ARTWORK 003

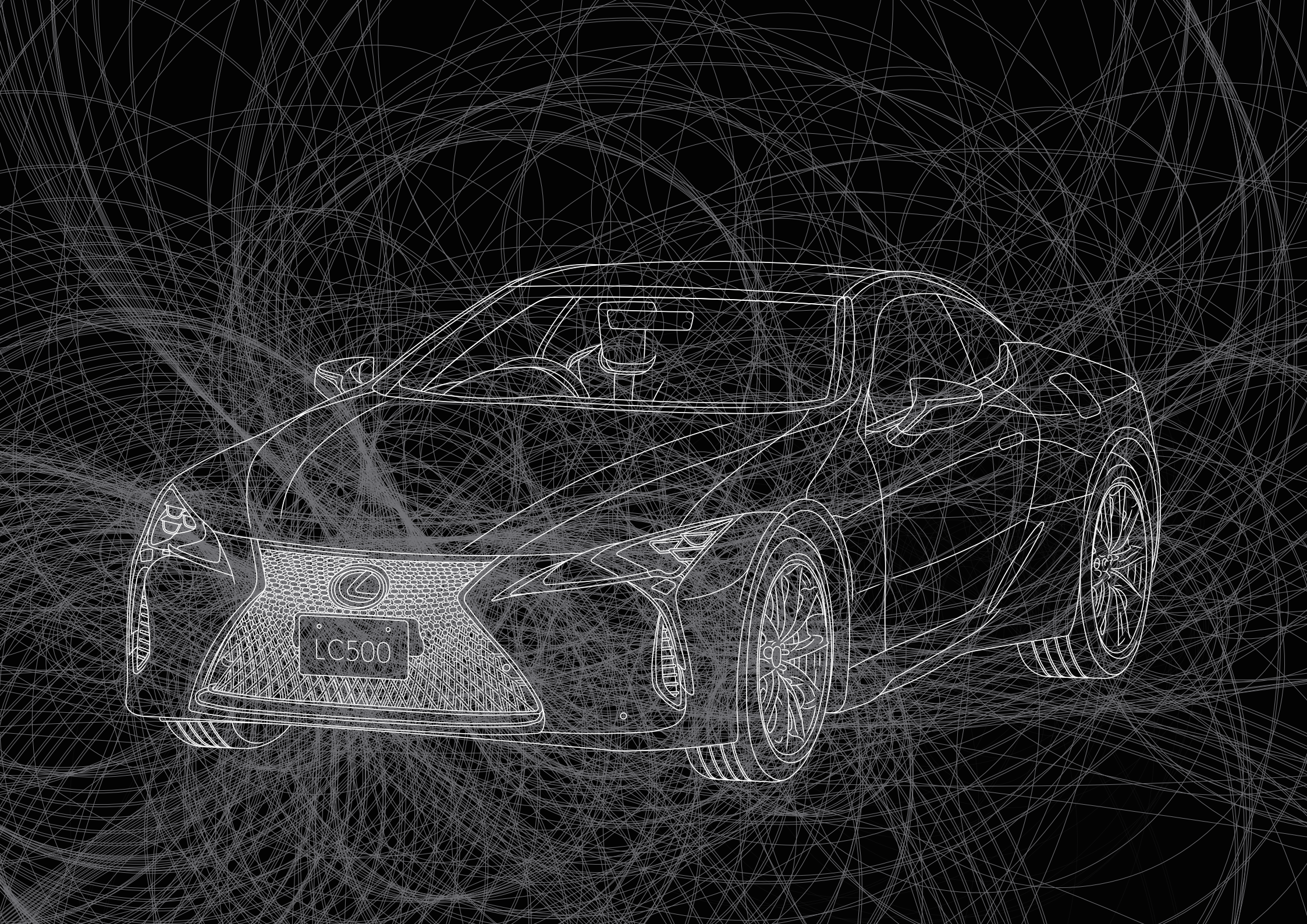
Artwork

家紋の伝統技法を用いて、LEXUS LC500 を新たな形で表現したアートプロジェクト。家紋は円と線の組み合わせによって成り立ち、円の重なりが独自の紋様を生み出します。本作では、その重なりだけでなく、あえて残した線もデザインに活かすことで、「紋曼荼羅」と呼ばれる京源特有の表現手法を用いたアートへと昇華しました。この技法を駆使し、円のみで LEXUS LC500 の造形を描くことで、“縁” をつなぎ、広げていくという象徴的な意味を持たせています。伝統と革新が交差する、唯一無二のアート作品が誕生しました。

MATERIAL

家紋




LC500

ARTWORK 004

Artwork

大阪欄間の彫刻技術を活かしたアートワークです。鳥にも、風にも、木の葉にも見えるその造形は、日本の美意識に息づく〝移ろい〟を表現しています。滑らかな曲線を持つ一つ一つのパーツが組み合わさり、全体を構成しています。さらに、右肩上がりの形状と末広がりのデザインにより、縁起の良さも表現しました。素材の特性を生かし、手仕事だからこそ生まれる表現に挑戦しています。

MATERIAL

大阪欄間









ARTWORK 007

Artwork

小郡市の中央を流れる宝満川。人々の営みを見守り、街の風景であると同時に時を刻んできた川です。本作はその穏やかな流れをモチーフに、手織りの布を柱にまとわせ、ゆらぎを空間に映しました。長さの異なる織布を重ね、川面のきらめきや流れ、深い静けさといった水の表情を表現しています。手紡ぎ糸の微細な揺らぎが布全体の表情となり、有機的でやわらかな印象をもたらします。古くから人をあたためてきた手織りの布。その重なりに宿るぬくもりを空間へひらき、柱を包む織布が、この場に滞在する人の心をもあたためます。

MATERIAL

手織布









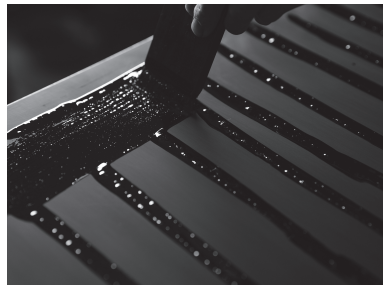
ARTWORK 008

Artwork

本プロジェクトは、兵庫県尼崎市に設置された壁面アート作品です。
漆は古くから人々の暮らしを支えてきた素材ですが、近年は生活様式の変化により需要が減少しています。本プロジェクトは、そうした漆の新たな可能性を探る試みとして始まりました。
作品は、水分を吸収して硬化するという漆の特性に着目し、「水」をモチーフとしています。青を基調とした小さな漆のピースを組み合わせることで、水面の揺らぎや移ろう色彩を表現しました。
また、漆で自然なグラデーションを表現することの難しさを逆手に取り、多数のパーツを組み合わせることで全体に緩やかな色の変化を生み出しています。素材が持つ制約そのものを表現へと昇華した作品です。
制作には、色漆の調合から木地製作、中塗り、上塗り、呂色仕上げまで、多くの工程と職人の手仕事が関わっています。一つの作品の中に、漆の技術と職人たちが積み重ねてきた時間が織り込まれています。

MATERIAL

漆







CASE STUDY：

MinamiAzabu M House

Architecture

都心に建つ二世帯住宅。地上4階・地下1階に加えルーフテラスを備え、互いのライフスタイルを尊重しつつ一体感を持つ住まいとして設計されました。地下には両親専用のジムを設け、独立したエントランスで気兼ねなく利用できる動線を確保。外観は杉板本実型枠仕上げのコンクリートに、チーク材の格子手すりとレッドシダーの軒天を組み合わせ、力強さと温もりを表現しました。さらに外断熱パネルを採用し、意匠性と環境性能を両立。ルーフテラスは六本木ヒルズを望む夜景を背景に、アウトドアダイニングやBBQを楽しめる憩いの場に。インテリアは効率性と快適性を重視し、ゾーニング空調や全館加湿換気システム、アルゴンガス入りLow-E複層ガラスを導入。四季を通じて安定した室内環境を実現し、上質なくつろぎをもたらしています。





CASE STUDY：

Azabu N House

Architecture

世界的に名を馳せる日本人シェフ夫妻のために設計された多層住宅。ロサンゼルスに持つ邸宅の優雅さと東京の洗練を融合させ、外観は御影石と木材でモダンに仕上げました。インテリアにも石材をはじめ自然素材を多用し、屋上テラスは静謐な憩いの場に。内部にはプライベートキッチンやエンターテインメントルームに加え、岩盤浴・サウナ・温泉・ジムを設置。航空機騒音や酷暑に対応する特殊ガラスや最新空調、ホームオートメーションを導入し、快適で心地良い暮らしを実現しています。









CASE STUDY：

Nishikawana H House

Architecture

南房総の雄大なオーシャンビューを望む別荘。リビングとテラスを一体化させることで内と外の空間を緩やかに繋げ、全室から海を望める設計としました。窓は壁内に収納可能とし、自然とつながる開放的な暮らしを実現。外壁は耐候性仕上げで潮風への強さを備え、内部は無垢オークの床や漆喰の壁天井を採用。大型浴槽には人工温泉システムを導入し、自宅温泉を堪能できます。さらに全館空調と除湿換気により、常に清浄で快適な環境を保つ住まいです。









「情熱を欠かないものづくり」の証に。

KASASAGI